

2026 年度 事業計画書

1. 研究事業

1-1. フェロー研究活動

(1) フェローによる研究

大学等を定年退職した方で、基礎科学・基礎工学分野で顕著な業績を挙げた研究者を採用し、フェロー自らが研究した成果を広く発表する活動です。

助成事業を中心に推進するため、2026年度より、フェローによる研究活動は休止といたします。既に2022年度より、フェローの募集は休止しております。

(2) 豊田理研フェロー交流会ワークショップ

退任したフェローを中心に、国内外の著名な研究者を招聘し、特定の研究分野に関して集中的に議論する場を提供することで、各研究分野の進展に寄与するものです。

表 1. 2026年度 豊田理研フェロー交流会ワークショップ開催予定

実施年月	テーマ	開催場所 (予定)
2027年2月	量子物質の科学	京都 (100~150名程度)

1-2. 学術談話会の開催

1-2-1. 豊田理研懇話会

「最先端で活躍されている著名な先生をお招きして難しいことをやさしく話していただく」豊田理研懇話会は、豊田中央研究所の協賛で、研究事業の一環として年3回実施しています。ホームページにも公開し、活発な討議をしていただきます。

2026年度も3回開催する予定です。

1-2-2. 物性談話会

「物性談話会」は、物性物理学研究者の啓発を図る事を目的に、名古屋大学との共催で、2026年度も8回開催いたします。表2に開催予定を記します。

表 2. 2026年度 物性談話会開催予定

回	実施年月	講演者	講演テーマ
1	2026年5月	物質・材料研究機構 木村 薫	半導体準結晶・近似結晶による高性能材料の創成
2	2026年6月	東京科学大学 教授 中嶋 健	AFMによる機能性ソフトマターの局所解析
3	2026年7月	千葉大学 准教授 星野晋太郎	近藤効果と重い電子系のお話し
4	2026年8月	東京大学 教授 関真一郎	マクロな時間反転対称性の破れた反強磁性体の物質設計と電氣的制御

5	2026年9月	大阪大学 教授 中村篤智	非対称構造型半導体のマイクロ変形挙動と構造電荷効果の解明
6	2026年10月	東京大学 准教授 加藤岳生	メゾスコピック系の量子輸送現象
7	2026年11月	東京大学 教授 岩田忠久	高機能環境対応高分子材料の創成
8	2026年12月	東京大学 教授 松田康弘	超強磁場による電子格子強結合系のスピン制御

1-2-3. 分子科学フォーラム

「分子科学フォーラム」は、分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供することを目的に、分子科学研究所と共催で2026年度も4回開催いたします。例年同様、市民講座として一般の方々にも公開いたします。

表3に開催予定を記します。

表3. 2026年度 分子科学フォーラム開催予定

回	実施年月	講演者
1	2026年6月	京都大学 教授 橋本幸士
2	2026年7月	名古屋大学 教授 坪木和久
3	未定	分子科学研究所 准教授 榎山儀恵
4	2026年10月	静岡大学 教授 中村彰彦

2. 助成事業

2-1. 豊田理研スカラー

2-1-1. スカラーの状況

博士の学位を有し、国内の大学に所属する優秀な若手教員の中から、研究課題が当所の設立趣旨、目指す方向と合致する方々を選定し、研究費用の一部を助成する制度です。

2026年度スカラー募集は、指定校制度を廃止し、広くすべての大学からの募集を展開しました。

外部委員6人の審査委員で審査を行った結果、282名の応募者の中から、表4に示す50名を採択候補として選定いたしました。

採択された研究者には2年間規定の助成金を支給すると共に、助成金獲得が実績となるように認定証を発行します。

表4. 2026年度 豊田理研スカラー採択候補者 … 50名

No	大学名／専攻		氏名	職位	研究テーマ
1	北海道	情報科学	ショオ リン	准教授	自律型ロボティック基盤モデルの構築
2		工	岩井 愛	助教	電解液の固体化が拓く新規アノード酸化法の創製
3		理	宮岸拓路	助教	フラッシュケミストリーによる速度論トラップ超分子の合成
4	東北	学際科学 フロンティア	サド アアカン クシャ	助教	2次元量子磁性体における非線形スピントルクの創発とエネルギー効率制御
5		環境科学	王 佳婕	助教	α -スポジューメンからの低温・脱炭素型高純度Li生産プロセスの開発
6		工	周 偉偉	准教授	塑性加工によるMXeneのIn-situ薄層化と高機能MXene/Ag基複合材料の創製
7		多元研	川脇徳久	准教授	常温常圧電気化学反応を利用した炭素および窒素循環システムの確立
8		理学	豊田良順	助教	暗所環境下での人工分子モーター駆動法の開拓
9		工	牧浦理恵	教授	多孔性金属錯体MOFナノシートにおける水分子の動的挙動解明：太陽光水浄化への展開
10	筑波	数理物質	浦 朋人	助教	酵素を活性化する相分離液滴のデザイン手法の創出

11	筑波	システム 情報	五十嵐康彦	准教授	データ駆動科学による材料開発の推進
12	埼玉	理工	高橋朋子	准教授	RNAネットワークによる外来RNA応答選択の分子原理
13	千葉	薬学	原田慎吾	准教授	超低原子価炭素のケミストリー
14	東京	先端研究 センター	岡村嘉大	准教授	絶縁体におけるトポロジカル電子輸送現象の開拓
15		物性研	高木里奈	准教授	多軌道系分子性導体における反強磁性由来の新奇電磁応答
16		薬	三ツ沼治信	助教	核酸塩基の位置選択的トリフルオロメチル化修飾法の開発とその応用
17		先端研究 センター	車 一宏	助教	誘導ラマン散乱による非線形光学デバイス材料の高速三次元計測
18		工	秋葉貴輝	助教	反応性流体の量子アルゴリズム開発
19		工	小池太智	助教	未踏 π 電子系材料の開発を志向したB, N- π 電子系部位の一発導入試薬の創製
20		工	前田拓也	講師	金属/p型GaN接合における特異な電流輸送機構の解明とオーミック接触低減
21		理	谷藤 涼	助教	マイクロ流路と化学-酵素合成の融合による複雑天然物合成基盤の開拓
22		総括プロ ジェクト	中室貴幸	特任准 教授	電子顕微鏡で拓く動的分子科学の創成
23		理	島尻拓哉	助教	過渡状態の精密制御に基づく超核偏極法の開発
24	東京 科学	生体材料 工学研	沖田ひかり	助教	液晶化を利用したXNA遺伝情報に基づくタンパク質発現
25		理	山本和樹	助教	量子開放系の非平衡強相関現象の解明と深化: 生物と物理の学際融合科学の開拓
26		生命理学	小坂田拓哉	特任准 教授	社会的ストレスによって生じる可塑的な脳内制御基盤の脳包括的な可視化

27	東京科学	M&Dデータ科学	清水秀幸	教授	AIによるクマムシ保護タンパク質の網羅的同定と医療格差を克服する細胞保護医薬の創製
28		理	齊藤 馨	助教	ドナードーピングによる新奇プロトニクスの開拓
29	お茶の水	自然科学	五十嵐悠紀	准教授	創造的生活を支える実世界・バーチャル空間融合デザイン技術の研究
30	横浜国立	工	小島 駿	助教	積層メタサーフェスによるセマンティック秘匿通信プロトコルの開発
31	名古屋	工	久志本真希	准教授	第一原理計算と非平衡成長を組み合わせた ルチル型Sn-Si-O 固溶体形成の探索
32		理	三石郁之	講師	高感度・小型X線マルチイメージング観測装置で切り拓く高エネルギー宇宙物理学
33		学際統合	納戸直木	特任助教	強化学習を基盤とする分子生成モデルを起点とする光触媒の開発
34		工	路 姍	講師	人の安全知覚・信頼感を統合した次世代 V2X 通信の設計
35	京都	工	清水大貴	助教	基底状態Baird芳香族化合物の創製と機能開拓
36		工	田村朋則	准教授	光近傍ラベリング法PhoxIDによる神経活動依存的受容体インタラクトーム変化解析
37		農	白石晃将	助教	葉圏微生物の活用による作物増収および温室効果ガス排出削減技術の開発
38	京都工繊	分子化	外間進悟	助教	材料化学と機械学習を統合した高空間分解能な細胞温度計測技術の開発
39	大阪	基礎工	山西絢介	助教	力検出を用いた円二色性の近接場観測によるスーパーキラリティの開拓
40	奈良先端	先端科学	中内大介	特任准教授	エネルギー移動を鍵とした高分解能シンチレータの開発
41	広島	先端理工	黒田健太	准教授	非平衡電子状態の多次元観測による光電スピン変換原理の確立
42	九州	高等研究院	牛丸理一郎	准教授	生体触媒を用いた硫黄含有核酸の創出
43		工	佐々木陽一	准教授	光-物質強結合を活用した光機能開拓

44	九州	医	田村友和	准教授	超小型レポーターを用いた多様なウイルス感染動態の高感度分析基盤の構築
45		理	飯森 陸	助教	圧力制御によるスピン伝導相転移の臨界ダイナミクス解明と再構成可能スピントロニクスデバイス創出
46		マス・フォア・インダストリ研	廣瀬雅代	准教授	わが国の貧困状況把握に資する小区分別統計数理的アプローチの精度向上
47	九州工業		谷口 彰	准教授	大規模言語モデルを活用した主観と客観の統合型ナビゲーションシステムの構築と実証
48	熊本	先端科学	徐 薇	助教	生体応答型スマートエンボラスの創製：造影・分解・薬剤送達を統合した新概念塞栓材料
49	兵庫県立	工	田中芹奈	助教	樹脂摩擦における摩耗粉構造を軸とした環境依存界面反応の解明と過酷環境しゅう動設計指針の創出
50	東京理科	理	石川 孟	講師	MOF による量子ジャイロイド格子の創成と電子機能の開拓

2027年度の豊田理研スカラーについては、2026年10月から募集し、審査委員会による審査を経て、決定いたします。

2-1-2. 豊田理研異分野若手交流会

若手研究者の育成ならびに分野横断的な連携促進を目的として、2016年度より「豊田理研スカラー」を対象に異分野若手交流会を実施してきました。

2026年度においても本交流会を継続開催いたします。

本交流会では、多様な研究分野の若手研究者が一堂に会し、異分野間の情報交換やネットワーク構築を支援することで、新規研究テーマ創出の機会を提供します。

また、2026年度は、当該年度のスカラー採択者に加え、過去の採択者とも連携し、年度を超えた継続的な交流およびネットワーク強化を図ります。

交流会の概要については、表5に示します。

表5. 2026年度 豊田理研異分野若手交流会概要

豊田理研異分野若手交流会（名称は「スカラー交流会」へ変更予定）			
実施年月	2026年9月1日～2日	方法	集会方式
場所	ミッドランドホール（ミッドランドスクエア オフィスタワー5階）		
参加者	豊田理研スカラー他、企画・運営委員、審査委員 など		
内容	研究紹介プレゼンテーション、ポスターセッション、懇親会 など		

2-1-3. 豊田理研スカラー共同研究

(1) スカラー共同研究 Phase1

「豊田理研異分野若手交流会」に於いて、スカラー間に生まれた共同研究の芽を支援する「豊田理研スカラー共同研究 Phase 1」を実施いたします。

応募のあった17件の内、審査委員会で採択された9件について、表6に記載いたします。

表 6. 2026 年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase1 採択候補・・・9 件

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	岡山大学	岡村秀紀	助教	超分子化学と光化学の融合に基づく生体内光分子構築と薬効制御への応用
	広島大学	久野尚之	助教	
2	京都大学	宗 正智	助教	蛋白質凝集の構造多型形成機構を解明する統合的分子解析手法の開発
	東京科学大学	金森功史	助教	
	東北大学	福山真央	准教授	
3	京都大学	金尾英佑	助教	大規模プロテオーム解析と超高感度シード増幅アッセイによる神経変性疾患タンパク質凝集体の理解と診断法への応用
	岐阜大学	本田 諒	准教授	
4	京都大学	堀江正信	助教	分子設計×哺乳類細胞バイオリクター×マイクロ流路 DDS による細胞内侵入型 RAS 阻害タンパク質の創出
	岐阜大学	本田 諒	准教授	
	東北大学	福山真央	准教授	
5	京都大学	堀江正信	助教	超音波を用いた革新的細胞製造プロセスの実現
	東京農工大学	倉科佑太	准教授	
6	京都大学	金尾英佑	助教	大規模ペプチドミクス計測基盤で拓く植物分泌ペプチドームアトラス
	福井県立大学	篠原秀文	准教授	
7	京都大学	大友章裕	助教	光熱変換タンパク質と磁性ナノ粒子による局所温度の制御・定量と生体分子機能の操作
	静岡大学	大多哲史	准教授	
8	京都大学	ピンチェラ フランチェスカ	講師	リグニン由来アルツハイマー病治療薬のためのクラウドベースのインシリコ創薬プラットフォーム
	筑波大学	ヘンファサトポルン コウイット	助教	
9	九州大学	松島綾美	教授	エストロゲン受容体を標的とした転写制御分子クリップの創製
	東京大学	谷藤 涼	助教	

(2) スカラー共同研究 Phase2

Phase1の実施を経て、更に大きな進展が期待できるテーマについて、スカラー共同研究評価委員会の評価・選考によりPhase2へと移行します。

Phase2では助成金の追加、メンバーの補充等を行い、

- ・異分野連携型「新研究領域」の創出
- ・グループリーダーの育成
- ・優秀な若手研究者間の人材ネットワークの構築 を目指していきます。

規定の助成金を2年間支給していきます。

2025年度に実施したスカラー共同研究Phase1の9チームの中から、2026年度のPhase2へ進む3チームを表9に示します。

表 7. 2026 年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 進出候補・・・3 件
*チームリーダー

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	東京科学	*寺坂尚紘	特任准教授	マイクロ流路デバイスを用いたセルフリターンパク質進化
	立命館	磯崎瑛宏	准教授	
2	東京	*森近一貴	助教	赤外レーザーを用いた電気化学反応制御法の開発
	筑波	鄭サムエル	助教	
3	東京科学	*金森功吏	助教	合成化学とゲノム生物学の融合による化学的遺伝子制御法の基盤技術開発
	九州	河添好孝	助教	

2026年度にPhase2 2年目となる3チームを表8に示します。

表 8. 2026 年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 (2 年目) …3 件
*チームリーダー

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	名古屋工業	*大幸裕介	准教授	イオン伝導性ガラスを用いた超小型人工衛星に搭載可能なタンクレス固体推進機の開発
	豊田工業	渡邊保真	准教授	
	三重	田港 総	助教	
2	早稲田	*出浦桃子	准教授	排熱有効利用システムに向けた熱電と蓄電のデバイス性能向上
	豊橋技科	引間和浩	助教	
	大阪	石部貴史	講師	
	三重	田港 総	助教	

3	防衛医科	*杉山夏緒里	助教	しなやかさに着目した血管老化モデルの構築
	名古屋	清水一憲	准教授	
	静岡	大多哲史	准教授	
	京都	三浦理紗子	助教	

(3) スカラー共同研究 Phase3

2年間のPhase2の実施を経て、更に大きな進展が期待できるテーマについて、スカラー共同研究評価委員会の評価・選考によりPhase3へと移行します。

規定の助成金を3年間支給していきます。

2025年度に実施したスカラー共同研究Phase2（2年目）の3チームの中から、2026年度のPhase3へ進む1チームを表9に示します。

表 9. 2026 年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase3（1 年目）…1 件

*チームリーダー

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	大阪	*大塚洋一	准教授	薬物動態・代謝を可視化する高空間分解能質量分析イメージング技術の開発
	名古屋市立	小山 聡	教授	
	岐阜	古山浩子	准教授	
	岐阜	本田 諒	准教授	

2-2. フェロー制度

2-2-1.ライジングフェロー

日本国内の大学に所属する教員で、科学技術の分野において世界をリードする研究者に対して、大型の研究助成を継続的に実施することにより、研究の更なる進展を加速し、学術の振興、発展、および人材育成に貢献するための支援制度です。

豊田理研スカラー採択の実績がある者の中から、活発な研究活動を実施している新進気鋭の研究者に助成を行う事で、将来一流研究者としての活躍が期待される者をサポートしていきます。

フェロー選考委員会で選考・審査を行い、採択者を決定いたします。年間最大 2,000 万円を最長 5 年間支援していきます。

表 10 に 2026 年度に採択されたライジングフェロー1 名、表 11 に 2 年目および 3 年目のライジングフェローを示します。

表 10. 豊田理研ライジングフェロー 採択者・・・1名

	氏名	研究テーマ
1年目	鈴木 啓一郎 大阪大学基礎工学研究科 教授	体内が“薬の製造プラント”となる未来型医療の実現

表 11. 豊田理研ライジングフェロー ……4名

	氏名	研究テーマ
2年目	打田正輝 東京科学大学 准教授	量子幾何学非対角輸送応答の開拓
3年目	大野 真之 東北大学多元物質科学研究所 准教授	アニオンの複合化で拓く固体イオニクスのフロンティア
	後藤佑樹 京都大学理学研究科化学専攻 教授	ハイブリッド擬天然物ペプチド戦略の推進
	朴 昭映 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任准教授	生体分子アンサンブルによる機能性核酸の開発と創薬基盤プラットフォームの構築

2027年度に採択するライジングフェローは、2026年6月に開催するフェロー選考委員会にて選考・審査を行い、決定いたします。

2-2-2. シニアフェロー

世界トップレベルの業績をあげている定年を控えた一流研究者に助成を行う事で、所属する大学等を拠点に研究を継続していただき、当該分野の更なる進展が期待される者を「シニアフェロー」として支援する制度です。年間最大5,000万円を最長5年間助成します。

なお、シニアフェローの募集は、ライジングフェローの応募・採択状況により検討していきます。

2-3. 特定課題研究

2021年より特定課題研究の募集を休止しています。

(2021年10月11日 第43回理事会 承認済み)

2-4. 若手人材育成事業

2-4-1. 海外大学院進学支援

優秀な日本の学生が国内の大学、大学院から博士号(Ph.D.)取得を目的に、海外の大学院進学を目指すことを支援する制度です。

＜応募条件＞

- (1) 国際科学オリンピック国内大会一次選考（予選）通過者
（代表選抜大会出場者から変更）
- (2) 国際バカロレア認定校（DP）卒業者（スコア＞36以上）
- (3) 大学や財団などによって選抜され、2カ月以上の海外留学、インターンなどを経験した者。但し、単なる語学留学は除く
- (4) One Earth Guardians育成機構とトヨタ・モビリティ基金が共同実施の「Good Life on Earth」のプレイヤー（過去に在籍したものを含む）

選考委員による審査の結果、前年度に採択された者を含め、現在 9 名が、進学コースとしての支援を受けながら留学生活を送り、8 名が今年以降の留学に向けて準備を行っています。

また、準備コース 1 名も、現地大学の調査や訪問などの準備・調査を進めています。

表 13. 海外大学院進学支援対象者

＜海外大学院進学コース：留学支援中 9 名＞

氏名	笹木宏人
応募時所属	東京大学 理学部数学科 学部 4 年
留学先	セントルイス・ワシントン大学
留学予定期間	2024 年 9 月 ～ 2029 年 8 月
応募要件	科学オリンピック（物理、数学、化学）

氏名	野間裕太
応募時所属	東京大学大学院 工学系研究科電気系工学専攻 博士 2 年
留学先	トロント大学（カナダ）
留学予定期間	2024 年 8 月 ～ 2028 年 8 月
応募要件	海外留学

氏名	久野桃子
応募時所属	東京都立大学大学院 理学研究科生命科学専攻 修士 2 年
留学先	パデュー大学
留学予定期間	2024 年 8 月 ～ 2029 年 7 月
応募要件	海外留学

氏名	奥田航大
応募時所属	東北大学 経済学部経済学科 学部4年
留学先	エコール・ポリテクニーク (フランス)
留学予定期間	2025年9月～2030年8月
応募要件	海外留学

氏名	永島来悟
応募時所属	東京大学大学院 理学系研究科物理学専攻 修士2年
留学先	カールスルーエ工科大学 (ドイツ)
留学予定期間	2025年9月～2030年8月
応募要件	海外留学

氏名	幅 優斗
応募時所属	九州大学 工学部機械航空工学科 学部4年
留学先	コーネル大学
留学予定期間	2025年9月～2030年8月
応募要件	海外留学

氏名	伏見宗太郎
応募時所属	京都大学 工学部物理工学科機械システム学コース 学部4年
留学先	カリフォルニア大学サンディエゴ校
留学予定期間	2025年9月～2030年8月
応募要件	海外留学

氏名	阿江 伸太朗
応募時所属	東京大学大学院 工学系研究科物理工学専攻 修士1年
留学先	オックスフォード大学 (イギリス)
留学予定期間	2025年9月～2029年9月
応募要件	科学オリンピック (地理、物理)、海外留学

氏名	讃井 彩夏
応募時所属	慶應義塾大学 環境情報学部 学部卒
留学先	コーネル大学
留学予定期間	2025年9月～2030年9月
応募要件	海外留学

<海外大学院進学コース：留学準備中 8名>

氏名	今村 啓人
応募時所属	東京科学大学 医学部医学科 学部 6年
留学先	選定中
留学予定期間	2026年夏～
応募要件	科学オリンピック (数学)

氏名	王 方成
応募時所属	東京大学大学院 工学研究科電気系工学専攻 修士2年
留学先	ジョージア工科大学
留学予定期間	2026年春～
応募要件	海外留学

氏名	桑原 涼歌
応募時所属	早稲田大学 先進理工学部 電気・情報生命工学科 学部4年
留学先	ジョージア工科大学
留学予定期間	2026年夏～
応募要件	海外留学

氏名	銭 優希
応募時所属	東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 修士2年
留学先	オックスフォード大学 (イギリス)
留学予定期間	2026年夏～
応募要件	科学オリンピック (生物学)

氏名	武樋 力哉
応募時所属	早稲田大学 基幹理工学部 学部4年
留学先	選定中
留学予定期間	2026年夏～
応募要件	海外留学

氏名	土田 美咲
応募時所属	京都大学 農学部応用生命化学科 学部4年
留学先	選定中
留学予定期間	2026年夏～
応募要件	海外留学

氏名	林 泰瑠
応募時所属	京都大学大学院 理学研究科 生命科学専攻 修士2年
留学先	選定中
留学予定期間	2026年夏～
応募要件	科学オリンピック（生物学）

氏名	福西 咲穂
応募時所属	京都大学 理学部理学科地球物理学専攻 学部4年
留学先	選定中
留学予定期間	2026年夏～
応募要件	科学オリンピック（地学）、海外留学

<海外大学院進学準備コース：1名>

氏名	久野 証
応募時所属	東京大学 大学院情報理工学系研究科 修士2年
準備活動	現地大学の事前調査・訪問
応募要件	海外留学

なお、2026年の募集に関しましては、2026年2月2日～5月6日までの間で公募を行っており、本年もより多くの学生に門戸を拓けています。

2026年6月に開催予定の若手人材育成事業選考委員会による選考を経て、採択者を決定します。

今後続く後進のメンター役や、将来の豊田理研のコミュニティづくりなどにも協力してもらうため、留学支援終了後の2年間についても若干の追加支援を行っています。

2-4-2. 寄付

若手人材育成を目的に活動している公的機関や財団、組織等の中から、その活動が当財団の目指す方向と合致する場合、その支援のために寄付を行う制度です。毎年、余剰金が見込まれる場合、寄付を検討します。具体的な寄付先、金額等はその都度理事会、評議員会で承認、決議いただく事にいたします。

3. 広報活動

3-1. 豊田研究報告の刊行（第 78 号）

2025 年度在籍のフェローの研究報告に加え、豊田理研スカラー、スカラー共同研究の研究報告を記しました。2026 年 6 月に発行いたします。

詳細は、ホームページよりご高覧ください。

3-2. アニュアルレポートの発行

2025 年度の財団 1 年間の活動を掲載したアニュアルレポートを発行します。財団の取り組み、目指すものを分かり易く記録としてまとめました。

2026 年 7 月に発行を予定しています。

3-3. ホームページの維持、管理

当財団の理念、および助成制度を若手研究者や広く一般の方に分かり易くお伝えすることを目標に財団のサイトを公開しております。「財団概要」、「事業紹介」、「募集情報」、「イベント情報」等を分かりやすく整理するとともに、人材育成に注力する運営方針や新しい助成制度の魅力がより直接伝わるサイトにしております。

2026 年度は掲載内容をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたします。また、更に分かりやすいホームページを目指して改良を進めて参ります。